

令和8年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題			本年度学校経営の重点(短期経営目標)				
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りに貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>			<p>・昨年度の学校満足度アンケートでは、ほとんどの項目において数値が向上しており、本校の教育活動が生徒の実感を伴って進められていることがうかがえる。一方、学習する雰囲気については年々高まりつつあるものの、授業を大切に取る取組を今後も継続的に全校で進めていく必要がある。</p> <p>・学習に向かう意欲が弱く、基礎的な学力に課題が見られる生徒に対して、個に応じたきめ細やかな指導を行い、一定の成果を上げることができた。しかしながら、欠席過多により高校生活の継続が困難となる生徒も依然として見られ、家庭と連携したより組織的、継続的な支援の充実が課題である。</p> <p>・各学科・コースにおいて、八幡支援学校との交流をはじめとする特色ある教育活動を推進することができた。今後、教育効果を一層高めるために、各取組に共通して見られる視点や成果を整理し、校内での共有及び学科・コース間での連携を進めていく必要がある。</p> <p>・インターシブや学科、学年部での取組など体系的なキャリア教育を通して、生徒一人一人が目的意識をもって進路を考える力を身に付けることができた。その成果が外部からも高く評価され、文部科学大臣表彰等を受けるに至った。今後も早期からの進路意識の醸成と学力伸長を見据えた取組を進めていく必要がある。</p> <p>・学校創立20周年を迎え、これまでの教育活動を振り返るとともに、次世代に向けた教育の在り方を検討する必要がある。そのため、南北キャンパスを含めた有機的な連携を一層深め、教育活動の質的向上を図ることが必要である。</p>			<p>① 授業を中心に、学力と進路を保障する ➡経営方針(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を教育活動の中心に据え、基礎・基本の定着を図るとともに、個々の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。 ・ICTの効果的な活用や学習形態のUD化、日本語支援体制の整備を進め、就学保障および進路保障の取組の充実を図ることで、中途退学の防止及び希望進路の実現につなげる。 <p>② 生徒が成長と達成感を実感できる教育活動の充実 ➡経営方針(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動、ボランティア活動、各学科の特色を生かした学習などを通して、生徒の興味・関心を引き出し、得意分野を伸ばす教育活動を充実させる。 ・多様な体験の中で達成感や自己肯定感を育み、キャリア教育を体系的に推進する。 <p>③ 学びと生活を支える基盤づくり ➡経営方針(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びが安心して学校生活を送り、学習に取り組むことができるよう、保護者や地域等と連携し、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を円滑に営む上で必要となるルールやマナーを理解し、互いを尊重して行動する態度の育成を進める。 ・安心・安全な教育環境の整備および施設設備の維持・充実を進め、教育活動全体を支える基盤づくりに取り組む。 <p>④ 共生社会の担い手を育てる教育の推進 ➡経営方針(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が互いを尊重し、共に学び合う姿勢を育む教育活動を推進する。 ・八幡支援学校との協働を含め、インクルーシブ教育の在り方について理解を深め、実践を通して共生社会の担い手として必要な資質・態度の育成を図る。 <p>⑤ 教職員が協働し、学校全体の教育力を高める ➡経営方針(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立20周年を契機として、本校の教育活動を検証するとともに、生徒や保護者の声を把握しながら、5年後・10年後を見据えた教育内容の改善に取り組み、教育活動の質的向上を図る。 ・南北キャンパス間の連携を強め、教職員間の共通理解を深めながら、チームとして生徒指導・学習指導を推進する。 ・本校の教育方針や特色ある教育活動について、中学生や地域に具体的な学校の姿が伝わるよう発信方法を工夫し、本校の魅力や効果を効果的に伝える取組を行う。 ・ワークライフバランス及びタイムマネジメントの意識を高め、時間外勤務縮減に向けた業務改善に取り組み、教職員が研修や学びに向き合える環境づくりを進める。 				
分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。	中間	年度末
組織運営	組織運営	重点①	授業を教育活動の中心に据え、個々の教育的ニーズに応じた指導を行う。	資質向上を図るための研修の積極的な受講	受講者数昨年度比120%(実人数)		教職員の積極的な研修受講につながるよう、センター研修等の周知および受講促進を行う。春と秋の授業実習期間を活用して、ICT活用、特にTeamsを活用した授業に取り組む。	研修受講者数 期間中の活用割合	70%	
	組織運営	重点⑤	南北キャンパス間の連携を強化し、教職員間の共通理解を深め、保護者、地域に本校の魅力や効果を効果的に伝える。	南北キャンパス間における協働的な取組の数	取組数5件以上		学校行事をはじめ南北キャンパス間の連携機会を推進する。 保護者が学校に来院する機会を増やし、保護者と教職員、生徒が共に活動する機会を用意する。	南北キャンパス間での協働的な取組の数 保護者と教職員、生徒がともに活動する機会の回数	5件以上 3回以上	
UD推進部	UD教育	重点④	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる。	学校満足度アンケート「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率	85%		校内のUD化を推進する。 効果的なUD学習を実施する。	企画実施回数 UD学習アンケートより「それぞれの人がもつ様々な個性や違いを認められるようになった」の肯定率	3回以上 95%	
	組織運営	重点⑤	本校の魅力や効果を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	前年度の志願者数を超えている。		学校ホームページの充実 中学校及び塾訪問の実施 学校説明会の参加促進と内容の見直し	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 年間訪問回数(定例の中学校訪問は除く) 学校説明会参加者の前年度比	200回以上 10回以上 10%増	
教務部	組織運営	重点①②	学習指導・学習環境の充実による学ぶ意欲の向上	授業評価アンケート全項目の全体平均	3.4		基礎補充等の効果的な運用による成績不振者数の減少。 教科や学年との連携強化による、基礎補充の参加率の上昇。 教科主任会議、成績会議の機能向上等による成績の共有と正確性の強化。	全校生徒における成績不振者数の割合 基礎補充の参加率 出欠・成績訂正用紙の受理枚数	20%以下 100% 前年度比半減	
	組織運営	重点②③	ICT学習支援ツールと図書館の有効活用による、生徒の学習意欲の向上	学校満足度アンケート「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%		ICT活用の推進 図書館イベントの充実による利用者数の増加	研修会の実施回数(オンライン・デマンド含む) 開館日一日あたりの利用者数	4回 年間平均15名	
生徒指導部	生徒指導	重点③	高校生としてふさわしい態度や行動を身に付けさせ、学びと生活を支える基盤を育む	学校満足度アンケート(Q12、Q13、Q14)の肯定率の平均	肯定率85%		高校生としてふさわしい態度についての啓発指導(担任への資料提供、生徒会活動、教室掲示等) 生活規律指導 交通安全指導(自転車指導)	実施回数 (北キャンパス)1・2クールと3・4クールを比較した増減(南キャンパス)指導対象生徒数の増減 自転車指導件数	12回 (北)10%減(南)10%減 10件以下	
	生徒指導	重点②	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	学校満足度アンケート「文化祭・体育祭などの学校行事が充実していますか。」「本校に打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率75% 強い肯定率30%		文化祭・体育祭の満足度の向上 部活動加入を促進	各行事生徒向けアンケートの強い肯定率 12月時点での部活動加入率(昨年度末より3%増加)	80% 45%	
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	重点①	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度アンケート「将来の進路や生き方について考える機会が設けられていると思いますか」の肯定率	90%		進路情報の効果的な提供を行う。 進路ガイダンスやHRにおける進路学習を通じて、進路希望について考える機会を持つ。 進路希望の実現に向けた知識や能力を身に付けるため、補習や指導を充実させる。	学校満足度アンケート「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率 学校満足度アンケート調査「生徒の進路実現に向けて、効果的な指導を行っていると思いますか」の肯定率 卒業生における進路未決定者の割合	90% 90% 10%以下	
保健部	保健管理	重点③	安心安全な教育環境を維持するため、ごみの分別を徹底するなど環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート「教室や廊下、下駄箱はきれいに清掃されていますか」の肯定率	80%		安全美化委員、保健委員で清掃活動、ごみの分別の呼びかけを行う。 大掃除等で、各クラスのごみの分別・清掃点検を行う。	呼びかけの回数 実施回数	年間4回(学校行事等) 年間3回	
	保健管理	重点③	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート「本校は生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか。」の肯定率	85%		生徒の実態に応じた「ほけんだより」を発行し、心身の健康についての情報を提供して健康管理への意識を高める。 検診後の治療勧告、および未処置者への働きかけを行う。	発行回数 再勧告の実施	年間10回以上 学期ごと	
第1学年部	学習指導・生徒指導	重点①③	日々の学校生活及び授業を大切にす。基本的な生活習慣の確立を図り、それを維持する。	学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%		SHR等において遅刻・欠席・授業規律・服装などの徹底した指導を行い、授業を大切にす意識の定着を図る。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を実施し、保護者連携も踏まえた指導を徹底する。 キャリア教育や交流行事等とおして勤労観・職業観の形成を目指し、自立を促す。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 ガイダンスや実習等の実施回数	週3回 年間3回 年間10回	
第2学年部	進路指導	重点①③	基本的な生活習慣を確立し、自己の進路目標や他者との共存のために自ら考え行動できる力を養う。	学校満足度アンケート「生徒の進路実現に向けて、効果的な指導を行っていると思いますか」の肯定率	90%		進路学習・キャリア教育・実習等を通じて、自己の進路目標を明確にできるように指導する。 日々声掛けして、遅刻や欠席に対する注意喚起を徹底する。 個々のニーズへの対応や集団生活を送る上での基盤作りのために時宜を得た面談や指導を行う。	進路希望調査による進路未定率 生活規律指導の指導対象者数(各クール) 個別面談の実施回数	10%未満 10%未満 年間3回	
第3学年部	進路指導	重点①	生徒一人一人が希望する進路を実現し、卒業できるようにする。	年度末進路決定者数の割合	97%以上		個別面談を通して、生徒の進路希望を把握し、各分掌・保護者等と連携して指導を行う。 進路別ガイダンスや学習会、就職セミナーおよび面接指導を計画的に実施する。 南北キャンパス間での情報共有の機会を充実させ、時宜を得た指導をする。	面談回数 定期的な進捗状況の確認と進捗に応じた計画修正の実施 情報の共有頻度	3回以上 就七6回(面接2回等)/年 1回以上/週	
事務部	施設設備管理	重点③	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を努める。	施設設備に起因する生徒の事故件数	0件		校舎・敷地内の日常点検を実施する。 教職員から施設設備の異常報告を受けた際に、速やかに対応策を検討する。 改修等を必要とする案件を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡視の週当たりの実施回数 対応策の決定、改善完了報告 報告・依頼の時期	1回 報告毎 案件毎	
	組織・運営	重点①	生徒・保護者等に対して、就学保障や進路保障など各種制度に関する連絡や処理を適切に行う。	就学及び進学・就職を支援するための援護制度の周知徹底	制度通知の都度		生徒・保護者等に対する連絡や、手続きの進捗状況を北南の事務室内で共有し連携を図る。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	配布資料、校内締切日等の調整及び確認 配布依頼の際、教職員への適切な説明及び周知	案内毎 配布毎	
専門学科	魅力ある学科づくり	重点③	専門学科生に必要な主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。	授業アンケート9「クラス全体が積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の肯定率	3.5以上		教室及び机の周囲の整理整頓や授業の開始時と終了時の挨拶など学習環境の整備を行う。 授業開始時の授業準備を徹底する。 月ごとに専門学科重点目標を策定し、振り返りを行う。	授業アンケート7「クラス全体が授業の準備をしっかりとっている」の肯定率 授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりとっている」の肯定率 月ごとの重点目標の自己評価「注意されずにできたか」の肯定率	3.5以上 3.5以上 90%	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末
国語科(北)	学習指導	重点①	生徒一人一人を積極的に授業に参加させ、学力の向上を実感させる。	授業アンケートQ6の平均値	3.4		生徒それぞれに定期テストや単元の終わりに評価の状況を説明し、改善を図らせる。 単元ごとに1回以上の授業内容を踏まえた課題を課す。 計画的に小テストを実施し、学習習慣の定着を図る。	実施回数 実施回数 得点率	定期テストごと 単元ごとに1回以上 60%	
地歴・公民科(北)	授業	重点①	授業内容の定着により、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6の「学力・技術の伸長を感じる」の評価の平均値	3.4		単元ごとに1回以上の授業内容を踏まえた課題を課す。 学期ごとに授業見学と意見交流を行い、ICTの活用方法などを共有する。 調査ごとに学習内容の振り返りを行う。	実施回数 実施回数 実施回数	単元ごとに1回以上 2回 5回	
数学科(北)	授業	重点①	規律ある授業を確立し、生徒たちに意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ6「この授業は学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.4		小テストやレポートを通して個に応じた指導を行い、基礎学力の向上を図る。 タブレット端末やプリント等を用いた、授業に意欲的に取り組めるような教材を作成・利用する。 授業を大切に意識の定着に加え、集中して取り組ませる授業を展開する。	第2回基礎力診断テストでD2以上 ICT機器やプリントの活用回数 授業アンケートQ11「私は集中して授業に取り組んでいる」の平均値	65% 週3回 3.4	
理科(北)	授業	重点①	授業に興味・関心をもたせ、自然現象に対する関心と理解を高めるとともに基礎学力の向上を図る。	不振者数の減少		年度末成績不振者数が在籍生徒数の10%以下	観察・実験・実験動画を用いて興味関心を高め、考察を通して考える力を養う。 課題を設定し、レポートを作成させ、科学的な思考・表現力を高める。 教科内の研修・検討会を実施し、ICTの活用等の方策を検討して授業改善を図る。	実施回数 実施回数 実施回数	各講座平均4回 各科目2回以上/学期 年間30回以上	
保健体育(北)	授業	重点①	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力の向上を図る。	授業アンケートQ12「私は授業に積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.5		授業での身だしなみ、ルールやマナーを守る意識を向上させる。 ベル着、授業開始時と終了時の挨拶を徹底する。 健康の保持増進につながる基礎体力の向上を目指す。	体育において装飾品や化粧品など身だしなみ指導を徹底して行い、怪我なく事故なく安全のためにルールを遵守する割合 体育・保健ともに授業開始のチャイム鳴り終わりに集合完了と、しっかりと整列して挨拶ができる割合 サーキットトレーニング、持久走の記録向上割合	75% 80% 80%	
芸術科(北)	授業	重点①	授業規律を確保し、諸活動に真剣に前向きに取り組む姿勢の定着を図る。	授業アンケートQ7,8,10,11の各科目平均値	3.5		授業開始チャイムの前から呼びかけて授業の準備を整え、常に授業に気持ちが向いているように指導する。 取り組む課題について、作品や演奏でより良い表現を目指して粘り強く努力するように指導する。 日頃の成果を発表する場を設定することで、自己の作品・演奏に責任をもたせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	授業規律確保のための声かけの状況 各生徒の活動状況に応じた指導の割合 作品や演奏を発表し鑑賞する場面の設定(講座クラス内での発表会を含む)	常時 90% 全講座年に2回以上	
英語科(北)	学習指導	重点①②	英語学習への意欲を向上させるとともに、英語を理解できる、伝えられるという感覚を養う。	授業アンケートQ6(学力・技術の伸長を感じる)の平均値	3.4		小テストを継続実施し、学力の伸びを生徒に実感させる。 積極的にALTとのITを実施し、英語を使ったコミュニケーションの面白さや実用性を生徒に実感させる。 音楽やスポーツなどを通じて、英語圏や世界の文化を学ぶとともに、日本文化にも目を向ける機会を持つ。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	5回以上 2回以上 2回以上	
家庭科(北)	授業	重点①	授業内容と実生活を結び付け、今後の自分の生活をより良くする方法を考えさせる。	授業アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.5		ICT機器を活用し、学習内容の理解を促すとともに、定着を図る。 授業の振り返りを記入させ、生徒の学習内容の理解度を把握する。 授業内容と自分の生活を結び付けて考える課題を設定し、自分の考えを書かせる。	ICT機器使用割合 振り返り活動 課題の設定回数	90% 毎回 各学期3回	
情報科(北)	授業	重点①	情報化社会で生きていくための知識と技術を習得させる。	授業アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.3		授業内容をまとめた動画を見せ、Webテストを行う事で定着を図る。 課題やワークシートの提出を徹底する。	実施回数割合 提出割合	90% 80%	
商業科(北)	成長達成感	重点②	検定試験への取組を通して生徒が成長と達成感を実感できる教育活動の充実を図る。	検定試験合格率 検定技能優秀者特別表彰取得率		受験者合格率50%以上 コース取得率30%以上	全ての授業において、パソコンまたはタブレット端末を活用する。 毎時の授業で、学習の振り返りができる時間を設定する。 ICT技術を活用して自律的な学習を促進する。	授業における使用頻度 各授業での実施率 各授業での実施率	90%以上 90%以上 90%以上	
国語科(南)	学習指導	重点①	積極的に学習する雰囲気作りを努め、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6～Q9の平均値	3.4		定期考査ごとに評価の状況を説明し、生徒自身にも振り返りをさせ、改善を図らせる。 授業外での学習習慣の定着を図り、小テストを行う。 ICT機器を活用し、授業内容への興味関心を促す。	実施回数 小テスト回数 機器使用回数	年間5回以上 年間10回以上 単元毎に1回	
地歴・公民科(南)	授業	重点①	授業をクラス全体で意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6の「クラス・講座全体が積極的に先生の質問に答えたり取り組んだりしている」の評価の平均値	3.4以上		授業中にプリントを書かせる。また、学習項目毎にまとめを記入させる。定期的に点検をし、加点の対象とする。 授業内容を踏まえた課題を出し、クラス全体が協力して取り組み、全員が課題を出し切る。 ICTを活用した生徒の調べ学習を行う。	実施回数 実施回数 実施回数	単元ごと 単元ごと 学期ごと	
数学科(南)	学習指導	重点①	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている」の平均値	3.4		定期的に課題を課し、ICTを活用し家庭学習の習慣と基礎学力を身に付けさせる。 始業チャイムと同時に立礼をし、授業に取り組む態度を身に付けさせる。	実施割合 実施割合	70% 80%	
	検定・資格	重点①②	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	3名		数学検定への受験を呼びかけ、資格取得を意識させる。 数学検定に向けた補習を行う	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	
理科(南)	学習指導	重点①	学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を高める。	授業アンケート項目「この授業は楽しさ」の評価の平均値	3.29		各生徒の学習状況を把握するため定期考査毎にノート等点検を行う。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。 演習・実験等を行い、内容の習得につなげる。	学習したノート等の提出 成績不振者への補充実施 演習・実験等の実施	定期考査毎に提出 定期考査毎に実施 各学期毎に実施	
保健体育科(南)	学習指導	重点①	自身の健康やスポーツライフについて自ら考え、行動できる資質能力の向上を図る。	授業アンケートQ7～Q9(クラス・講座全体が…)の評価の平均値	3.4		規律のある授業を展開し、安心安全な授業環境を確保するために始業時の挨拶及び身だしなみ指導を徹底する。 保健ノート、体育ノート・指導案及びレポートを期限内に提出するよう指導する。	授業開始時の身だしなみ(爪・化粧等)のチェック数及び遅刻者 提出物の提出率	10%未満 80%	
芸術科(南)	学習指導	重点①	主体的に行動し、自身の考えを他者に伝える表現力を育成する。	授業アンケートQ6、Q12の平均値	3.3		課題や作品の完成、発表に向けて、粘り強く取り組ませる。 課題や作品の提出期限を守らせる。 授業中の私語や居眠り、忘れ物がないようにする。	生徒それぞれの状況観察と個別指導の実施回数 課題毎の提出締切の明示、声掛けの実施 机間指導や声掛けの実施	課題毎に実施 対象者がいるときに頻度実施	
英語科(南)	学習指導	重点①	ICT機器を有効に活用し、基礎学力を向上させる。	授業アンケートのQ6の平均値	3.2		小テストを実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 様々な方式のパフォーマンステストを実施することで生徒の表現力を養う。 ICT機器を使用しながら、わかりやすい授業を行う。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 授業アンケートQ3の平均値	7回以上 2回 3.3	
家庭科(南)	学習指導	重点①	実践的・体験的な授業を通して、知識・技能の向上を図り、日常生活をよりよいものにしようとする態度を育成する。	授業アンケートQ5、Q6の平均値	3.2		実習や演習など実践的・体験的な授業の実施する。 振り返り課題の実施する。 実習の成果物や課題の提出期限を守らせる。	年間での実施割合 年間での実施割合 課題毎に提出締切を確実に指示する。	60% 70% 毎課題において実施	
情報科(南)	学習指導	重点①	主体的に授業に参加し、自ら学ぶ態度、姿勢を育てる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の評価の平均値	3.3		授業開始時にはコンピュータ起動ができていないか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	生徒の達成度の割合 生徒の達成度の割合	80% 80%	
福祉科(南)	学習指導	重点①	学習に取り組む姿勢を高め、基礎基本の定着を図る。	授業アンケートQ10、Q11の評価の平均値	3.4		授業開始までに学習環境を整え、授業の準備を徹底させる。 ICT機器の活用例を教科内で共有する。 定期的に小テストを実施し、授業の理解度を確認する。	実施割合 実施回数 実施回数	80% 各学期1回以上 年間10回以上	